

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290400161		
法人名	社会福祉法人神門福祉会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護グループホームかんの里(きずなユニット)		
所在地	島根県出雲市神門町13番地5		
自己評価作成日	令和5年3月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/32/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3290400161-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市米原2丁目7番7号		
訪問調査日	令和5年3月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念を基に、利用者の方の性格や生活環境を把握し、その人らしく居心地の良い場所であるようにと常に心掛けている。日常生活の中で、自分らしさを保つよう過度な介助はせず、出来ない事はお手伝いする姿勢で接するよう努めている。また、家庭的な雰囲気の中で生活して頂けるよう、その時期の行事を生活に取り入れてたり、煙で採れた野菜を食事に使用するなどしている。レクリエーションでは、壁画作りやちぎり紙、塗り絵や体操を行い脳の機能に刺激を与える働きかけも日々の生活の中に取り入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「尊厳」「家庭的な雰囲気」「安心」「絆」の4つの基本理念に基づき、平成20年に開設され15年を迎えられるグループホームです。
一人ひとりがその人らしく、できることはやって頂きながら、日々穏やかで温かい家庭的な雰囲気の中で安心して過ごしていただけるように職員は支援をされています。
コロナ禍になり、外出制限や家族との面会制限もある中従来からの保育園との交流はビデオレターと作品のプレゼントという形で続けておられます。
楽しみの一つでもある食事についても、コロナ禍の中でもテイクアウトを利用されたり、ホットプレートを使ってのおやつ作りを行いみなさんで楽しまれています。また、それぞれが台所で食事の手伝いや盛り付け、掃除を一緒にされるなど役割を持たせ、暮らしておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域、生活により近い環境の中でゆったりと日々を過ごして頂けるよう理念に基づいてサービスを行っている。又、事務所内の目のつく所に理念が貼ってありいつでも見れるようにしている。	「尊厳」「家庭的な雰囲気」「安心」「絆」という基本理念に基づき、月目標を作成し、理念と共に事務所内に掲示され、いつでも確認できるよう取組まれています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在コロナウイルスの影響の為、交流は難しいが挨拶をしたり、地域の行事に作品を展示という形で参加している。	現在はコロナ禍のため地域の方々との交流は難しい状況ですが、保育園とのビデオレターや作品のプレゼントの交流は行われています。また、地域行事の際に作品展示という形で参加されています。R5年度は従来からの小学校との交流も復活予定です。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在コロナウイルスの影響の為地域の方に向けての実践は出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在コロナウイルスの影響の為実施できていない。	コロナ禍のため2ヶ月に一度書面開催で行なわれています。資料を送付後は、市役所からの意見を返してもらわれています。R5年度は対面で行なわれる予定です。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍の中ではあるが、介護相談員の方には定期的に訪問を受け都度、状況の報告や利用者との関わりを持って頂いている。又、介護相談員の方にはその日の気付き等を報告して頂いている。	定期的に介護相談員の訪問があり、状況の説明や利用者の話を聞かれ気付き等、ホームと意見交換して頂きサービス向上に活かされています。市役所とは入退去者の報告をされ待機者の管理に協力されるなど連携されています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを努めているが、事故防止(転倒)のためセンサーマットを使用している方はいる。家族の方にはきちんと説明、報告をしている。身体拘束廃止委員会を年4回実施。3月にあと一回開催予定。	身体拘束廃止委員会が設置されており、年4回開催されています。身体拘束をしないケアに努めておられます。転倒事故防止のためのセンサーマットを使用される時には手順に則り、家族の同意・記録当が適切に行われ、使用されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	ケアカンファレンスや職員会議などで気になるような事があれば職員間で声掛けやケアの方法について検討し虐待が起こらないように努めている。高齢者虐待防止委員会を年4回開催。3月にあと1回予定ある。	虐待防止委員化の設置もあり、年4回開催されています。ケアカンファレンス・職員会議等でも気になることがあれば、声掛けやケアの方法について検討され、虐待防止に努めておられます。現在はオンラインでの外部研修が中心です。	虐待の芽チェックリストを活用され、振り返りを行なわれることに期待します。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在はこの関連法や制度を利用する方がいない為活用していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書による説明や見学を行った上入居申し込みを受け付けている。家族の方からの要望や疑問、問い合わせに対しては丁寧な対応や説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の方とはコミュニケーションを図り要望等あれば検討し、家族の方には来訪時に意見を直接伺ったりし他職員にも情報を共有して日々のケアに反映できるようにしている。	利用者には日々の暮らしの中から、意見・要望を伺うようコミュニケーションが図られています。家族についてはコロナ禍で面会制限が続いており、短時間で玄関先で話を聞かれたり、ケアプラン変更時に意見・要望を伺っておられます。毎月通信を送付され、日頃の様子を伝えておられます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議に管理者が参加された際には、意見する場面を作り目標の設定や反省、ケアの検討を話し合い日々のケアに反映出来るようにしている。	風通しの良い職場環境を目指しておられますが、現在コロナ対策や利用者への支援優先されている事もあり、意見交換が難しい状況です。今年度開設来の入居者が全て入れ替わられた事もあり、リノベーションリーダーを配置され従来からの行事の見直しに取組まれています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	新人職員には、熟練職員が指導にあたりケアの向上を図っている。又、個々に役割を分担し、職員がやりがいの持てる職場環境に努めている。	個々の職員のワーク・ライフ・バランスに配慮した働き方になるよう努めておられますが、現在職員数の充実に向けて、職場環境の整備に向け取り組まれています。	個々の職員への面談は行われていませので、管理者と共に目標設定、振り返りの機会を持たれることに期待します。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、動きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の職員に合った研修を受けられるようにしており、スキルアップに繋げている。今年度は、オンデマンドによる施設内研修を実施した。	コロナ禍になり、外部研修の受講が難しいため、オンデマンドによる施設内研修を今年度は導入されました。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、コロナウイルスの為同業者との交流はできていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規入居者の情報収集の際、一人一人の性格を把握し、常に何気ない会話をするよう心掛け職員の方から不安や思いを引き出せるよう努め信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居開始前より、どのような問題点を抱えているのかを把握し、要望等があれば言いやすい関係作りに努めている。直接、意見交換ができない場合は電話やメールで連絡を取り合うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人がどのように生活したいのか、どのようになりたいのかを把握し必要としている支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今までの生活履歴を把握し、本人の思いに寄り添いながら支援している。利用者の方に出来る範囲でお手伝いをして頂いている。掃除、洗濯物量みや調理の際使用する食材を切って頂いたり、台所に立つ事が難しい利用者の方にはリビングにて座って盛り付けを手伝って頂いたりするなど工夫している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウイルスの為面会にも限界があったが玄関先で会われたり、電話で話される機会を大事にして頂いた。家族の方には来訪の際、日常の様子を伝え利用者が安心して過ごせるよう一緒に考え意見交換を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医への受診をし繋がりを大切にしている。家族や知人の方へ暑中見舞いや年賀状、電話での連絡のやり取りを積極的にしている。	コロナ禍の中、感染対策を行ないながら馴染みの場所へドライブを中心に掛掛けておられます。また、かかりつけ医に受診されることによるつながりも大切にされています。家族や知人へのお便りや電話での交流も積極的に行われています。	昔話をして頂くきっかけ作りとして回想法に繋げ利用者の思いや意向に繋がっていくと良いと思います。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性や性格等を把握しトラブルにならないよう職員が仲介し交流が継続できるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームで看取りをした方の墓参りを入居者と一緒に行っていた。入院により退居された方に関してはコロナウイルスの為面会が出来なかった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の方とのコミュニケーションを多くとり、家族の方からも情報を得て意向の把握に努めている。意思表示が難しい方には、日々の関わりの中で表情や態度、性格等から思いを汲み取るよう努めている。利用者の方の言動を観察し、希望を聞き、認知症により忘れられても真の思いを汲み取るように努めている。	日々の暮らしの中から利用者とコミュニケーションを多くとり、24時間シートにも記録され、利用者の思いや意向が汲み取れるよう努めておられます。意思表示の難しい方の場合には、日々の表情や家族からの意見等を聞きながら検討しておられます。	本人の理解できる、生きるための目標につなげていけると良いと思います。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のこれまでのサービス利用の経過を把握し、利用者の病歴や生活歴も含め理解を深めている。本人の気持ちを重視できる限り生活環境が大きく変わらないよう配慮に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の状態に合わせた生活リズムになるよう心掛けている。タブレット記録により、利用者一人一人の心身状態や日常の過ごし方を速やかに共有出来るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1度のケアカンファレンスで見直しをして、課題があれば検討している。ケアカンファレンス時ではなくても状態の変化等あれば随時話し合い見直しを行っている。	3ヶ月ごとにケアカンファレンスを行ない、評価・見直しが行われています。状態変化があれば都度職員間で話し合い見直しが行われています。プラン変更時には、本人・家族からの意見・要望を聞き取り、プランに反映されます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレット記録に日中、夜間の様子で変わった事があれば記録するようにしている。必要な情報が一目で分かるようになっており情報の共有が速やかに行えている。	記録はタブレットで行なわれており、バイタル・水分摂取量・排泄状況等の情報共有がスムーズに行なわれています。計画作成責任者から変更点や特記事項については伝えられています。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスに捉われない事なく本人や家族の要望に出来る限り応えられるよう努めている。病院の送迎など家族の方が難しいところはグループホームで行っていた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	生活歴や家族との関係、行きつけの場所などを知るよう利用者にとっての地域資源の把握に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医を継続している利用者もおられる。必要であれば病院へ付き添いをしたり、電話で報告をするなど利用者や家族が共に安心できる体制になっている。	本人・家族の希望を優先され殆どの方が月1回の往診に来て頂ける事業所の協力医を希望されています。往診の無い従来からのかかりつけ医や他科への受診の際には、原則家族に同行受診をお願いされます。家族同行の場合にはホームでの様子を書面にし医療機関に提出されます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調に変化があった時は、きずなユニットの看護師や小規模看護師に連絡、相談をし随時適切な指示や判断を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、安心して治療できるよう詳細な看護サマリーを病院に提供している。退院前には、カンファレンスを開いて頂き、情報提供をしてもらい退院後のケアに繋げている。	地域連携室のソーシャルワーカーと情報交換を行わない連携し早期退院を目指されています。退院前にも連携室とカンファレンスを退院後のケアについて情報手協頂いております。コロナ禍の為カンファレンスは書面が中心となっています。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居開始時から看取りについて説明し相互理解を結んでいる。主治医の意見を傾聴しながら家族の思いに変化がある都度聞くようにしグループホームで出来る方法を検討し家族に伝えていた。オンライン研修でターミナルケアについての研修も行った。	利用開始時から、利用者・家族等に看取りについての説明を行ない同意を得ておられます。重度化し終末期が近付いてきた段階で主治医の意見、ほめへの可能な対応を説明し、家族の思い・要望を聞きその後の方針が決定されます。医療行為によってはホーム出対応できない場合もあることについても説明されます。ターミナルケアのオンライン研修が行われました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡の仕方は分かり易く作成してある。救急法の研修を行っているが、具体的な応急処置は看護師の指示を仰いでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者や職員が安全に避難できるよう避難訓練を年2回行っている。水害時の避難場所の検討も必要だった。	年2回の避難訓練が実施されており、連絡網を作成され災害時の協力体制がとれるようにされています。事業継続計画(BCP)は現在作成中です。今年度は地震対応マニュアルの整備を行ない、備蓄の用意の検討も行われました。	事業継続計画(BCP)については、早期の策定を望みます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念にも掲げており、尊厳の保証やプライバシーの確保はケアするにあたり常に意識している。トイレ誘導時、更衣時などは特に声掛けに注意を払うようにしている。	理念にも掲げられおり、必要以上に馴れ馴れしい言葉遣いにならないよう気を付けておられます。個々の利用者の尊厳とプライバシー確保に気を付けながら、特にトイレ誘導や更衣時の声掛けには気を付けておられます。トイレはそれぞれの居室に備え付けてあり、プライバシーの確保もできています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員とのコミュニケーションの中で気軽に希望を話して下さる方もおられる。意思表示が難しい利用者に対しては本人主体になるように、日々の利用者との関わりの中でヒントを得るよう心掛けて対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どうしても職員側のペースになっているところはあるように思う。本人がしたい事を希望された際はできるだけ希望に添えるよう努めている。活動を促す一方、自由な時間も設けるように努めている。全体的に自立度が高くなったので出来る限り本人のしたいことを聞くようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節ごとに衣類の入れ替えを行っている。着替えの際には本人に衣類を選んで頂いたり、昔から化粧しておられた方には行事の時に口紅を塗って参加して頂いている。髪が伸びたら訪問理容を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しみにされている利用者も多く、好みを伺ったり、見た目でも楽しんで頂けるよう食材にも工夫をしている。台所に入って頂ける方も増え交代で行って頂き盛り付けまでして頂いている。生きがいのになっている。	メインは併設特養の厨房より届きますが、炊飯やお汁はホームで行なわれており、それぞれが役割を持たれ、台所で一緒に調理される方や盛り付け、片付けをされる方もあります。コロナ禍の為外食に出かけられない状況の中、テイクアウトも行われました。鍋料理、ホットプレートを使ってのおやつ作りも行われています。お誕生日には豪華なおやつが提供されています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取では、食前や食事の時間、喫茶時にしっかりと水分を摂って頂いている。飲みにくい方には、好みに合わせて飲み物を変更し摂取して頂いている。食事は、個人の状態に合わせた食事量や形態にし提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全利用者に口腔ケアをして頂いている。洗い直しが必要な方には介助に入ったり、自菌のある方には特に菌の状態を観察するようにしている。義歯は、毎夜間洗浄液に浸け消毒し衛生にも気を付けている。	介護度が高く、うがいも難しい方もありますが、個々の状態に合わせ自身で歯磨き、仕上げ磨き、介助等必要な支援を行ない、清潔保持ができるよう努めておられます。入れ歯の方は夜間に洗浄液に漬け消毒しておられます。歯科はそれぞれが希望する歯科医院を受診されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレで排泄して頂けるよう利用者ごとの排泄パターンからトイレ誘導を行っている。衣類への汚染がないよう居室担当者を中心にパッドの種類の検討をしている。	できるだけ最期までトイレでの排泄が継続できるように心掛けておられます。日々の排泄記録から個々の排泄パターンを把握し、声掛け、トイレ誘導、介助等が行われています。排泄輸御品の選定についても居室担当者を中心に話し合い検討しておられます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲み物にオリゴ糖や牛乳等を入れて工夫しており飲水への働きかけは根気強く行っている。運動では、数名の方が廊下を往復をし歩いて頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日の設定はしているが、出来る限り希望の時間帯に入れるように努めている。一方で、普通浴槽の為、二人介助で入浴して頂く方は屋間に入る事しかできなかつたり、二人介助も出来ない方は冬季でもシャワー浴になっている。	月～土週2回が目安で入浴頂いています。できるだけ希望の時間に入って頂けるように職員配置等も検討しておられます。希望があれば同性介助にも対応しておられます。拒否傾向の方もいるが、タイミングを変えたり、職員を変える工夫をされ対応が行われています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人一人の生活習慣、その日の体調に合わせて休息や午睡をして頂いている。居室内は、温度、調光にも配慮し快眠につなげている。集団行動に捉われず、一人一人のペースを大切にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報はタブレット記録内に掲載されており職員が見やすいよう、目的や副作用をいつでも確認する事が出来る。状態観察をしっかりと行う事で症状の変化に気を配っている。	薬の情報もタブレット内のお薬手帳のアプリと連動されており薬の用法や副作用等についても分かりやすくなっています。服薬が変更になった際にもタブレットで情報共有され、利用者の状態観察を行ない、変化があればすぐに医師に連絡されています。誤薬がないようにダブルチェックを行ない、声を出して名前・日付の確認しておられます。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者との会話から要望を聞いたり、個々に出来る事や興味のある事を職員が見出せるよう日々努めている。コロナ禍になってからは、ドライブなどでの「気分転換が図れるように心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、その日の希望とはいかないが、天気と職員の状況に応じてドライブに出掛けている。墓参りを希望される方がおられ墓参りをする機会を作ることができた。	コロナ禍のため、希望通りの外出は難しいですが、ドライブに出かけたり、本人の希望でお墓参りに行かれた方もありました。お天気の良い日は近所の散歩も行っておられます。これからは、徐々に以前の日常に戻って来ると思いますから、それに対応して従来の様に出掛けられる予定となっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理が出来る方には本人にして頂いているがコロナ禍の為外出できず使用する機会がなかった。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望があれば自由に掛けて頂いている。遠くにおられる家族には、年賀状や暑中見舞いを出し交流を持って頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングのテーブル周りに、ソファや和ダンスなどを置き、ゆっくりと過ごせるような空間作りをしている。季節を感じて頂けるよう自作の壁画はその月の物などを飾っている。温度や調光にも気を配り環境整備している。	温度・湿度・換気にも気を付け、利用者がくつろいで過ごして頂けるような共有空間作りに努めておられます。壁面には季節を感じて頂けるような利用者の作品を飾られたり、その月にちなんだ物を置かれています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席では気の合った利用者同士で座れるように配慮している。一人になりたい方がおられる際は、ソファに座って頂き自由な居場所を確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室担当を決め責任を持って整理整頓を心掛けている。壁に家族の写真やメッセージカード等を飾ったり、使い慣れた物を持ち込んで頂き愛着のある物を居室に置く事で居心地の良い空間を作るようにしている。	家族にも依頼し本人の馴染みのある物を持って来て頂き、居心地の良い居室作りが行なわれています。殆どの方は家族写真を持って来られています。教室担当を中心に、居室内の整理整頓や利用者の動線を考えた家具のレイアウトも行われています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの建物で、安全に過ごして頂けるようにしている。廊下には手摺りがあり独歩の方はいつでも掴めるようになっている。今出来る事を継続できるように環境の整備を整えている。		